

# 健康耳より情報

## 新型インフルエンザ（後編）

4月号の後編です。4月号とあわせてお読みください。

### 【感染対策】

一般的な感染対策として「咳エチケット」が提唱されております。当初はマスクなしで来院する患者さんもおられました。その後はほぼ全員の患者さんがマスク着用で来院しておりました。

発熱外来（センター）は雄勝中央病院内で行ないました。これは「湯沢方式」と呼ばれております。他地域とは異なり、医療機関内に発熱センターを設置したものです。他地域では市内の公共施設にセンターを設置し、医師会、看護協会からスタッフが集まり診療するものです。この方式ですとセンターの所在地がわかりにくく、スタッフの確保も大変です。湯沢方式は院内完結型の施設のため、情報伝達が早く機動力もあります。湯沢方式は日頃皆様にご支援して頂いている事に感謝して、雄勝中央病院と湯沢市雄勝郡医師会とで相談して考えたものです。

予防ワクチンは接種対象者が二転三転して解り難かったのですが、接種は粛々として施行されました。季節性ワクチンと新型ワクチンを混同される方も見受けられましたが、医療情報を良く知ることが予防の第一歩ではないでしょうか。今回の新型インフルエンザの流行を教訓として、社会医学的な対応の必要性が再認識されました。

### 【今後の流行】

今回の流行は一段落したものと考えられますが、今後はこの新型インフルエンザが新たな季節性



雄勝中央病院  
院長  
中村 正明

節性インフルエンザとして登場いたします。従って、今秋にはインフルエンザ・ワクチンが新型ワクチンを加えた形で新たな季節性ワクチンとして接種されると思われれます。流行前に医療機関への受診をお勧めいたします。

現在、東南アジアにて強毒型の鳥インフルエンザの小流行が見られます。この強毒型のインフルエンザが何時日本に来るのか予測出来ません。鳥型インフルエンザは高死亡率が予測されます。その時には今回の対策を参考にし、より組織的な強力な対策を講じる必要があります。今回の対策とはまた違った対応を迫られますが、その時も地域のため雄勝中央病院は努力いたします。

### 【おわりに】

インフルエンザの流行は医療が単独では存在し得ない事を如実に示しました。医療機関同士はもちろん、医師会、保健所、市町村役所、学校、市民団体、地域住民など地域全員の対策が必要で

雄勝中央病院は地域中核病院としてこれらの課題に真剣に取り組みます。

今後皆様様の温かいご支援をお願い申し上げます。

## JA秋田厚生連 雄勝中央病院

〒012-0055  
秋田県湯沢市山田  
字勇ヶ岡25  
TEL : 0183-73-5000  
(代表)  
FAX : 0183-73-3749  
ホームページ :  
<http://www.ogachi-hsp.jp>

## 夢を運ぶヘルパー



去る2月25日「助けあい組織研修会」で「認知症」をテーマにした寸劇が行われました。福祉センター夢こまちのスタッフも「女優デビュー」、研修に参加した方々に認知症の症状について理解していただくお手伝いをしました。

認知症については、近年、理解が大分進んでいますが、特に地域の協力が不可欠です。「湯沢市認知症高齢者等見守りネットワーク」では、外出したまま家に帰れなくなってしまう事の多い方の情報を各関係事業所に提供しています。又、「認知症サポーター養成研修」などもおこなわれ、認知症についてより理解を深め、温かく見守っていく事が出来る地域社会づくりが進められています。

若年性認知症と診断されたある方は、その著書の中で「どんなに努力しても、物事や言葉は意識からすぐに消えていく。私のザルのような頭からどんどん漏れていってしまう。ただ大きな空白があるだけで、そこに物事を覚えておくことができない」と語っています。認知症は誰にでも起こりうる、最も身近な病気なのではないでしょうか。